

2018（平成30）年度

学習計画 （シラバス）

第2学年商業科



科目一覧（単位数）

- 国語総合（2単位）
- 地理 A（2単位）
- 数学 I（3単位）
- 生物基礎（2単位）
- 体育（2単位）
- 保健（1単位）
- コミュニケーション英語 I（3単位）
- 家庭総合（2単位）
- ビジネス実務（2単位）
- 財務会計 I（4単位）
- 原価計算（3単位）
- ビジネス情報（2単位）

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	国語総合	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	高等学校 国語総合 (第一学習社)	副教材	パーフェクト常用漢字 (第一学習社)		
教科目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにし言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
授業内容 進め方	・教科書を中心に読解を行います。読解のまとめとして表現活動を行います。 ・週一回漢字の小テストを行い、語彙力を高めます。 ・週一回読む時間・書く時間を設け、色々な文章に触れ考える力を高めます。				
授業の留意点	国語総合は、現代文・古典の分野を学習します。 現代文では「随想」「小説」「評論」「詩・短歌」を学習します。単元ごとの課題と、その課題を達成する方法を意識して、読解力を身につけましょう。 古典では「古文」「漢文」を学習します。音読、語彙、文法の基礎知識を大切にし、自力で古典を楽しめるような力を身につけましょう。				
学習方法 (アドバイス)	授業での調べ学習・表現活動などに積極的に参加して下さい。また、授業での解説はしっかり聞き、集中してノートを取るようにして下さい。漢字小テストのための家庭学習も行して下さい。漢字は何度も練習し1年生のうちから語彙量を増やすよう心がけて下さい。読む時間・書く時間では集中して課題に取り組んでください。				
課題・補習	適宜行います。また、長期休業中に成績不振の者に対して補習を行います。				
試験について	試験は定期試験4回。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・授業の取り組み ・授業ノート提出 ・課題プリント提出 ・定期試験			
	②話す・聞く能力	・授業参加の取り組み ・発表、スピーチ、ディベートの取り組み ・音読、暗唱への取り組み			
	③書く能力	・授業の取り組み ・課題(レポート・作文)の提出 ・書く時間の課題の提出 ・授業ノート提出 ・定期試験			
	④読む能力	・授業の取り組み ・読む時間の課題の提出 ・定期試験			
	⑤知識・理解	・漢字小テスト ・漢字コンクール ・定期試験			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	地理A	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	「新地理A」(帝国書院) 「新詳高等地図」(帝国書院)	副教材		「新地理Aノート」(帝国書院) 「世界の諸地域NOW2018」 (帝国書院)	
教科目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
授業内容 進め方	(1)教科書を中心に現代世界の地理的な諸課題について、地図の読図などの作業的、体験的な学習を取り入れ、地理的技能が身に付くよう展開していきます。 (2)授業中に出来るだけ多くの地図・資料を用いて学習します。				
授業の留意点	(1)現代世界の地理的事象について事実関係を常に疑問を持ちながら学びましょう。 (2)資料を調べて、客観的な事実を探求する力や、統計や地図などにわかりやすくまとめる表現力を身につけましょう。 (3)基本的な「知識・理解」については、その背景などを説明できるようにし、確実に身につけましょう。				
学習方法 (アドバイス)	教科書の内容をしっかりと理解するために、「新地理Aノート」を十分に活用してください。授業での小单元ごとに行う学習プリントで基本的事項の確実な定着をはかってください。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年4回実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしているか。 (授業態度、発言・発表内容、提出物)			
	②思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性を踏まえて多面的、多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえて、公正に判断しているか。 (授業態度、発言・発表内容、提出物、試験)			
	③技能	地図や統計資料、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することができるか。 (課題取り組み、提出物、試験)			
	④知識・理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追究の方法を理解し、その知識を身につけているか。 (小テスト、試験)			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	数学Ⅰ	単位数	3 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	「最新 数学Ⅰ」(数研出版)	副教材	「3ROUND 数学Ⅰ」(数研出版)		
教科目標	高等学校数学の基礎を定着させることを目的とする。そのために各自の計算力を向上させることを目標にする。 基本的な計算問題を確実に解けるようにした上で、若干難しい問題に対しても積極的に取り組もうとする姿勢を身につける。なお、適宜課題学習を行う。				
授業内容 進め方	教科書の内容を主に行うが、必要に応じて中学校で学習した内容の確認・復習も行う。例題、練習問題を通じて各自が解法を理解し、更に副教材の問題演習を行うことにより基礎の定着をはかる。状況を見て、副教材にある応用例題にも取り組むこととする。 時間的に余裕のある場合には、副教材以外にもプリント等で問題演習を行う。				
授業の留意点	基本的な問題を大切にすること。教科書の例題、練習問題は確実にできるようにすること。その中でわからないことがあった場合には、わからない所を明確にした上で質問するなどしてきちんと理解しておくこと。それができた後、副教材の問題を積極的に解き自分の学力向上に努める。				
学習方法 (アドバイス)	手順を追って計算することが苦手なために最後まで問題を解ききることができず、数学を苦手だと感じている人は少なくない。基礎計算力を確実に定着させれば、自ずと数学嫌いが解消される場合も少なくない。自分の学力と苦手を各自が把握し、繰り返し演習に取り組むことで学力は向上する。				
課題・補習	教科書の補充問題、章末問題、副教材の問題のうち授業で扱わなかったものを課題とする場合がある。但し、提出を課さない場合でも、各自が学習することが望ましい。日常の補習は行わないが、必要に応じて補習を行うこともあり得る。				
試験について	試験は定期試験4回のほかに単元テストを行う予定である。試験全てを総合的に判断して評価する。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	各章における考え方に関心をもつとともに、積極的に演習に取り組み技能を修得しようとする姿勢を身につけているか。また、事象を数学的に考察し判断しようとしているか。 ・学習活動への取り組み ・課題や提出物の状況(ノート、プリント、レポート等)			
	②思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 ・試験 ・提出レポートの内容 ・提出ノートの内容			
	③技能	事象を数学的に表現・処理するために必要な技能・知識を身につけているか。また、それらを活用する方法や推論の方法などを修得しているか。 ・試験 ・小テスト			
	④知識・理解	各章の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。 ・試験 ・小テスト			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	生物基礎	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	新編 生物基礎(啓林館)	副教材	改訂版 生物基礎の基本マスター		
教科目標	中学校で学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。また、観察、実験などを通して、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方も養う。				
授業内容 進め方	教科書で図や表の読み取りを重点的に行い、重要事項の確認を行った後、問題集を用いて理解を深め、生物学の基礎を身につける。				
授業の留意点	・板書をノートにしっかりと書き、復習を行うこと。 ・ノートや課題は指示に従い、必ず提出すること。 ・授業時には教科書、ノートを持参し、不明な点は授業中に解決するよう心掛けること。				
学習方法 (アドバイス)	生物を勉強する際一番大切なのは、内容を理解することです。内容を理解せずに、暗記してしまうと本当の意味で勉強したことになりません。文を暗記するだけなら容易ですが、なぜそうなるか、どういった原理なのかを理解することによって様々な共通点が見えてきます。内容を理解するには、集中して『なぜ?』と考えながら授業を受けることが一番です。				
課題・補習	適宜実施します。				
試験について	年4回の試験を実施します。試験および授業態度から総合的に判断し評価します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心をもち意欲的に探求しようとする姿勢がある。 ・学習活動への参加状況 ・ノート、課題などの内容と提出状況			
	②思考・判断・表現	日常生活において事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現する。 ・定期試験の解答の内容 ・レポートの内容 ・発言の内容			
	③技能	観察、実験において過程や結果を的確に記録、整理する。 ・実験、観察の授業中の実験器具操作や方法 ・レポート、定期試験の解答の内容 ・発言の内容			
	④知識・理解	基本的な概念や原理解法則を理解し、知識を身につけている。 ・定期試験の解答の内容 ・レポートの内容			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	体育	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	「ステップアップ高校スポーツ」 「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店	副教材		指定ジャージ、指定靴 指定Tシャツ、柔道着(男子)	
教科目標	運動を意欲的に実践し、調和の取れた心身の発達を目指す。また、運動を通して公正・協力・責任などの態度を学び、生涯を通じて計画に基づいて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。				
授業内容 進め方	各種運動を実施しながら学んでいく。				
授業の留意点	① 指定ジャージの管理 ② 時間を守る ③ 安全性への配慮 ④ 指示を聞く姿勢と態度 ⑤ 用具の準備・片付けと協力 ⑥ 他の生徒との協調 ⑦ 体調が悪くなったり、怪我をした場合はすぐに教科担任に申し出ること				
学習方法 (アドバイス)	日頃から心身の健康や体力に関心を持たせ、各種目の技能向上を目指す。また、生涯にわたり体育的活動に親しむことが出来るように、興味を持って取り組むことや、他者とのコミュニケーションを取りながら協力し合って授業に望むことが出来るようにする。さらに、事故や怪我等、安全面への配慮も確認する。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	種目毎、授業の進度に応じて適宜実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	服装・身だしなみ・協調性等			
	②思考・判断・表現	毎時間の取り組みを観察する			
	③技能	種目毎の実技試験による評価			
	④知識・理解	授業内での観察や筆記テスト等			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	保健	単位数	1 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	「現代高等保健体育 改訂版」 大修館書店	副教材	「現代高等保健体育ノート 改訂版」 大修館書店		
教科目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
授業内容 進め方	教科書・ノート、必要に応じてプリントを使いながら学習していきます。				
授業の留意点	①個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとすること。 ②個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えるよう学習に取り組むこと。 ③健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けること。				
学習方法 (アドバイス)	試験が年に2回なので、毎時間の授業で教科書の内容やノートの問題をしっかりと理解し、試験に備えておく必要がある。また、日頃から健康問題や保健・医療サービス等に関心を持つことも重要である。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	試験は前期期末試験と学年末試験の2回実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	授業中の態度や発言など			
	②思考・判断・表現	課題解決学習への取り組み			
	③技能	発表やレポートの内容、定期試験			
	④知識・理解	定期試験、小テストなど			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	3 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	VISTA English CommunicationⅠ	副教材	VISTA English CommunicationⅠ WORKBOOK システム英単語 Basic		
教科目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を身につける。 具体的言語活動は次の通り。 (1) 日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる。 (2) 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 (3) ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる (4) 簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。				
授業内容 進め方	・教科書やプリントを使いながら文章の内容把握をする ・文章の要約等をとおして情報の概要や要点をとらえる、またそれを伝える ・情報や文章から考えたこと、感じたことについて意見を交換する ・自分自身のことについて表現する 以上の項目をとおして4技能を総合的に育成する				
授業の留意点	・言語活動に積極的に参加して学習すること。 ・音声的な特徴(アクセント・イントネーション)や日本語との違いに注意しながら発音すること。 ・まとまりのある文章を音読・暗唱することをとおして英語の文章の流れに慣れること。 ・違いを認め合う姿勢で他者を尊重すること。				
学習方法 (アドバイス)	・授業中の言語活動に積極的に参加すること。 ・自分の意見を持つこと。 ・学習ノートや教科書・プリントの復習に努めること。 ・音読練習をすること。				
課題・補習	家庭学習用単語練習、学習ノート(既習事項確認用)を課題として適宜提出する。 長期休業課題、週末課題を課す。				
試験について	定期試験を年4回実施する。 ※試験とは別にパフォーマンステスト(実技テスト)を実施する				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	① コミュニケーション への関心・意欲・態度	・コミュニケーション活動に関心をもち、積極的に言語活動に取り組んでいるか。 ・自己表現活動や他者との意見交換に積極的に取り組んでいるか。 ・自己の技能向上のために取り組んでいるか。 (各活動への参加の様子の観察、ワークシート、授業の感想シート、課題提出状況)			
	② 外国語表現の能力	日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、得られた情報の概要や自分の考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できているか。 (定期試験、ワークシート、スピーキングテスト、プレゼンテーション)			
	③ 外国語理解の能力	日常的な話題やまとまりのある文章の内容をもとに、英語を読んだり聞いたりして、情報や意見など相手が伝えたいことを理解しているか。 (定期試験、ワークシート、リスニングテスト)			
	④ 言語や文化につ いての知識・理解	日常的な話題やまとまりのある文章の英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているか。 (定期試験、小テスト、英単語コンクール)			
備考	パフォーマンステストにおける評価基準はテスト実施時に提示する。				

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	家庭総合	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	東京書籍 家庭総合 自立・共生・創造	副教材		実教出版 生活学Navi 資料＋成分表 2018	
教科目標	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
授業内容 進め方	・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を学びます。 ・自分自身や現在の生活を深く見つめ、自立を目指し将来を考えることが出来るように学習を進めます。 ・多様な学習形態を取り入れ、生活や学習の中から見つけた課題の解決方法を考え、実践していきます。				
授業の留意点	・家庭科の各分野や他教科での学習と関連づけて考えるようにしましょう。 ・自らの経験や体験、他の人の意見を大切にし、自分の考えを持つよう心がけましょう。 ・ワークシートに授業の中で大切だと思うことや自らの考えを書き込むなどし、自分なりに工夫や整理をしましょう。 ・ワークシート、レポート、作品等の提出物は期日を守って必ず提出しましょう。				
学習方法 (アドバイス)	家庭総合を学ぶ上で最も大切なことは、単なる知識や技術の習得のみではなく、学習した内容を日常生活に生かすことです。学校での学習を家庭生活で実践し、将来に生かせるようにしてください。				
課題・補習					
試験について	定期試験は前期中間、前期期末、後期中間、学年末(計4回)の実施予定です。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、意欲的に学習し、生活を向上しようとする実践的な態度が身についたか。 ※授業態度・ワークシート等			
	②思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて課題を見つけ、課題解決のために考え工夫する力が身についたか。また、自分の考えなどを表現する力が身についたか。 ※定期試験・ワークシート・発表・レポート等			
	③技能	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて、自立のために必要な基礎的技術が身についたか。 ※実習・ワークシート・作品・レポート等			
	④知識・理解	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて基礎的・基本的な知識が身についたか。 ※定期試験・ワークシート等			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	ビジネス実務	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	ビジネス実務(東京法令出版)	副教材			
教科目標	・基本的なビジネスマナーを身に付ける。 ・ビジネス文書作成や指示された作業を自ら理解し、行動に移せるようにする。				
授業内容 進め方	授業を1つの会社とみなし、生徒を新入社員として会社に入社させる。初めに入社試験を実施し、そこから授業展開をしていく。入社後は、新人研修、試用期間としての基本実務を経て、正社員となる。その後、新人正社員として、ビジネスマナーや文書作成などオフィス実務を研修を通して学んでいく。 また、授業の始まりの際には、出勤簿の押印、身だしなみのチェックを行う。				
授業の留意点	今すぐにでも就職試験や進学試験に行ける身だしなみで授業を受けさせる。また、指示されたことを自ら理解し行動に移すことを基本とする。授業の中では、ビジネス語、敬語を利用し、目上の人に対しての言葉遣いにも注意させる。				
学習方法 (アドバイス)	毎時間、指示されたことを見逃さず、1つ1つ業務をこなすこと。遅れを取っていると感じた際には、授業外で作業するなど努力することが必要。また、話を1回で聞くこと、メモを取ることが大切になる。				
課題・補習	毎時間、課題を課す。提出についてはその都度決定する。				
試験について	定期試験は実施しない。しかし、毎時間の身だしなみチェックや課題の提出、授業への取り組みを評価とする。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …◎ ※ビジネスの諸活動に関する実践的な態度を身につけているか。			
	②思考・判断・表現	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …◎ ※基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけているか。			
	③技能	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …◎ ・授業内での実技テスト …△ ※ビジネスの諸活動に関する情報を適切に収集、処理するとともに、その成果を適切に表現できる。			
	④知識・理解	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …◎ ・授業内でのテスト …◎ ※ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解しているか。			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	財務会計Ⅰ	単位数	4 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	財務会計Ⅰ（東京法令出版）	副教材			
教科目標	企業の日常発生する取引を合理的・能率的に記帳できる能力を習得し、作成された帳簿や企業の経営成績を明らかにする損益計算書・財政状態を示す貸借対照表といった財務諸表をとおして、ビジネスの諸活動を計数的に把握できる能力を身に付けることを目標とする。				
授業内容 進め方	会計の意味・目的・歴史を学び、株式会社の設立・決算などの記帳を学んでいく。また、貸借対照表に記載する資産・負債・資本の意味や分類、損益計算書の損益に関わる規準などを学習し、財務諸表を作成したり利用したりできる能力を身につける。				
授業の留意点	教科書の内容を中心とする。プリントを使い、演習問題を行う。 電卓・赤ボールペン、定規などの忘れ物をしないようにすること。				
学習方法 （アドバイス）	わからないところはそのままにせず、その時間で解決できるようにすること。あきらめることなく最後までやり抜くことが大切である。 普段の学習については、復習するように心がけること。次の授業で扱う内容を予告するので、予習も進めておくことが授業での理解につながる。				
課題・補習	課題は、授業時間に消化しきれなかった問題が課題となる。補習は、授業内で理解するのに時間がかかる生徒を対象に行う。また、成績不振者に対して長期休業中や放課後などに補習を行う場合もある。				
試験について	前期中間試験、前期末試験、後期中間試験、学年末試験の計4回実施。 適宜、小テストも行う。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への取り組み …◎ ・課題・提出物の状況 …◎ ・プリント …◎ ・定期試験、検定 …△ ※財務諸表の作成に関する知識と技術に対して興味を持ち、学習に自ら進んで学習に取り組んでいるか。			
	②思考・判断・表現	・学習活動への取り組み …○ ・課題・提出物の状況 …○ ・プリント …○ ・定期試験、検定 …○ ※財務諸表のはたす役割を理解して、会計に関する課題の解決を目指し、自ら考え、基礎・基本の知識、技術を活用し適切に判断する力を身につけているか。			
	③技能	・学習活動への取り組み …○ ・課題・提出物の状況 …△ ・プリント …○ ・定期試験、検定 …◎ ※ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理し、その結果を的確に表現できるか。			
	④知識・理解	・学習活動への取り組み …△ ・課題・提出物の状況 …○ ・プリント …△ ・定期試験、検定 …◎ ※財務会計の意義、会計法規および会計基準について理解し、会計処理に関わる一連の手続きと手順を理解しているか。			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	原価計算	単位数	3 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	原価計算(東京法令出版)	副教材			
教科目標	製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得し、原価の概念について理解するとともに、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業内容 進め方	教科書の流れに沿って、教科書の内容をまとめたプリントを中心に学習を行う。例題、練習問題を通じて理解し、更に復習問題を継続的に行うことにより定着をはかる。定着の確認をするため、定期的に確認テストなどを実施する。また、検定試験の受験に対応できるように関連させながら学習する。 全商簿記検定1級(原価計算)合格を目標に取り組む。				
授業の留意点	1年次に学習した商業簿記を基本とするが、原価計算は新たに学ぶ科目である。つまり、全員が同じスタートラインに立つ科目であり、ここからの取り組み次第である。そのため、一時間一時間を大切にし、わからないところはそのままにせず、その時間、またはその日のうちに解決をして、次の時間に先延ばしにしないようにすること。毎時間の取り組み、課題・宿題の取り組みは積極的に行うこと。				
学習方法 (アドバイス)	原価計算の基本的な考え方や計算方法をしっかりと理解すること。何度も繰り返し問題を解くことで、理解し、より定着する科目である。そのため、諦めず、粘り強く、最後まで取り組むことが大切である。				
課題・補習	週末課題・長期休暇課題を課す場合がある。また、確認テストや定期試験の成績不振者に対する補習、検定前の講習を実施する。				
試験について	定期試験を4回実施する。(前期中間・前期期末・後期中間・後期期末)				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	授業への参加態度が良好か。 演習問題にきちんと取り組んでいるか。 ノート整理と配布プリントの整理ができているか。			
	②思考・判断・表現	会計処理を正しく理解し、正確な帳簿の作成ができているか。 自分から進んで取り組んでいるか。 (定期試験、小テスト等により確認します。)			
	③技能	会計法規に基づいて、正しい会計処理を習得したか。 (定期試験、小テスト等により確認します。)			
	④知識・理解	定期試験 4回の成績、小テストにより理解度を確認します。 課題の理解度を確認します。 授業の内容をより深く理解しようとしているか。			
備考					

平成30年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	ビジネス情報	単位数	2 単位	学年・学科	2 年 商業科
教科書	ビジネス情報(実教出版)	副教材		平成29年度版 全商情報処理検定模擬試験問題集2級	
教科目標	・情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する情報処理の意義や役割について理解する。 ・1年次の情報処理で習得した基本的知識や技術の向上・応用力を身につける。				
授業内容 進め方	・表計算ソフトEXCELを用いて、関数を利用したデータ処理やグラフ作成を、副教材を中心に学習する。全商情報処理検定2級受験を基本とし、その後は集計処理など応用的な技術を学習していく。				
授業の留意点	・パソコンに向かう時の正しい姿勢を身に付けるようにする。 ・情報処理検定2級の取得が第一の目標です。 ・問題集及び筆記用具など、授業に必要な物の忘れ物をしない。万が一忘れた場合は、授業開始前までに教科担任に申し出ること。				
学習方法 (アドバイス)	・わからないところはそのままにせず、授業中に聞くこと。 ・暗記科目ではないので、理解した知識を利用する技能が身につくまで根気強く演習問題に取り組むこと。 ・答えを聞くのを待つのではなく、問題を自分で考え解く力を身につけること。 ・授業進度より遅れる可能性がある場合は、放課後等を使い、課題に取り組むこと。				
課題・補習	・課題は、数回に分けて授業で取り組んでいる課題を提出させる。また、検定前に筆記対策として実施する。・補習は、状況に応じて、小テスト・実技テストを行い、基準に達しなかった者について放課後実施する。				
試験について	定期試験なし。そのため、授業での取組状況、課題の提出状況、日常の小テストなどが大切になります。				
評価の 観点・方法	評価の観点		評価方法		
	①関心・意欲・態度		・学習活動への参加の仕方や態度 ・提出物の提出状況		
	②思考・判断・表現		・学習活動への参加の仕方や態度 ・提出物(課題)の内容		
	③技能		・提出物(課題)の内容 ・授業の中での実技テスト		
	④知識・理解		・提出物(課題)の内容 ・授業の中での実技テスト ・授業の中での筆記テスト		
備考					